

今年八月、都留文科大学の森の巣箱でムササビが二頭の子どもを育て始めました。キャンパスにはムササビの子育て用の巣箱が2個あり、子育てのようすが観察できるように中にビデオカメラを設置しています。どのような暮らしをしているのかなど謎の多いムササビの生態を多くの人と解き明かしていこうと、巣箱の中の映像は大学のホームページでも見ることができるようになっています。

キャンパスの森でムササビが子育てに挑んだのは今回が初めてではありません。しかし天敵でもあるテンに襲われたりするなど無事に巣立ったことはありませんでした。こうしたことは自然の摂理とはいえ、巣箱を設置した以上、できる限りの安全は確保したいものです。今回は、木登りの得意なテンが巣箱に近づかないよう周囲の木にトタン板を巻いて観察を続けました。

ムササビは都留市のマスコットにもなっているように、シンボリックな存在です。私たちにとっては身近に当たり前にいるムササビも世界から見ると特別な動物です。もともとムササビの仲間は東南アジアに多く生息しているのですが、日本のムササビはそのなかでも北限に分布しています。成長すると全長が80cmにもなる世界でも最大級の滑空動物なのです。

鳥のように羽ばたけば自由に空を飛べるのに、どうしてムササビは滑空という方法で移動するのでしょうか。それは木の上での生活が関係しています。ムササビは生涯にわたって木から下りることはほとんどありません。木の上で生活すると天敵に襲われる危険は少なくなり、そのかわり食物はほとんど木の葉や果実など植物に頼らなければならなりません。羽ばたいて移動するには大きなエネルギーが必要となります。そこでムササビは、なるべくエネルギーを節約し、風の力を頼りに移動する方法を身につけたのでしよう。

キャンパスのムササビも巣箱での子育てを始めて一カ月半が経とうとしています。子どももすっかり大きく成長し、巣箱の中でジャンプを繰り返しています。滑空の練習をしているのでしよう。昼間、母親は仰向けになり子どもと一緒に寝ています。ずいぶんとのんびりした子育てに見えますが、子どもが外に出ようとすると手で身体をつかみ元に戻します。ときどき巣箱を移動するなど危険への対応も怠りません。夜は頻りに巣箱に戻り授乳をします。余計なことをせず、大切なときに手をさしのべる。キャンパスのムササビのそのような子育ても終わろうとしています。

## 連載・青少年健全育成シリーズ 第316回 「ムササビの子育て」

青少年の声かけあいさつ運動の推進  
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」  
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。  
青少年育成都留市民会議編集委員

### 広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？  
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています  
(10,300部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ：総務課 法制広報担当

### 広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月  
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。

掲載状況は、下記をご参考としてください。

また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄